

観点 1 知識・技能 2 思考・判断・表現 3 主体的に学習に取り組む態度

指導単元	観点	単元の評価規準（学習評価表）	具体的評価目標（おおむね満足 B）	評価方法・場面	弱点克服
B 生物育成 時間(1～8) 4～7月 ・生物育成が社会に果たす役割 ・小松菜の栽培	1	・作物、動物および水産生物の成長、生態についての基礎的な原理の理解し、説明できる。 ・安全かつ適切な方法で栽培ができる。 ・生活や社会に果たす役割や影響に基づいた生物育成の技術の概念を理解し、説明できる。	・作物、動物および水産生物の成長や生態についての基礎的な原理を理解している。 ・間引きや元肥、追肥などの管理作業を理解している。 ・栽培計画をまとめ、その通りに作業ができる。	・ワークシート ・作品 ・定期試験	・教材工夫 ・質問用紙 ・授業展開 ・補習実習 ・個別指導
	2	・生活や社会の中から生物育成の技術にかかわる問題を見出して課題を見つけ出し、解決策を考えることができる。 ・身の回りにある生物育成の技術にこめられた工夫を読み取ることができる。 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、生物育成の技術を評価し、適切に選択、管理、運用し、新たな発想に基づいて改良、応用することができる。	・栽培記録をまとめ、評価・改善点を考えることができる。 ・身近な生物育成の技術にかかわる問題の解決策を考え、まとめることができる。	・実習中の取組 ・ワークシート ・定期考査	・教材工夫 ・個別指導
	3	・進んで生物育成の技術とかかわり、主体的に理解し、技能を身に着けようとしている。 ・自分なりの新しい考え方やとらえ方によって、解決策を構築しようとしている。 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて生物育成の技術を工夫し創造していこうとしている。	・自ら進んで生物育成に関わる技術を見つけ出し、技能について身に着けようとしている。 ・身近な生物育成の技術にかかわる問題を見つけ出そうとしている。	・実習中の取組 ・振り返りシート	・教材工夫 ・補習実習 ・個別指導

指導単元	観点	単元の評価規準（学習評価表）	具体的評価目標（おおむね満足 B）	評価方法・場面	弱点克服
A 材料と加工 時間（11～21） 6～10月 ・材料と加工が社会に果たす役割 ・ラック製作	1	・木材加工で使用する道具を安全に使用し、適切に加工することができる。 ・材料や加工の特性等の原理・法則などについて理解し、説明できる。 ・製図のルールに従い、正しく製図することができる。	・原理・法則を理解することができる。 ・けがや事故なく、正しい使い方で工具を使用し、材料加工ができる。 ・道具の種類や用途を理解して、使用できる。 ・身近な材料とその加工方法について調べ、まとめることができる。	・ワークシート ・作品 ・定期試験	・教材工夫 ・質問用紙 ・補習実習 ・個別指導
	2	・生活や社会の中から材料と加工の技術にかかわる問題を見出して課題を見つけ出し、解決策を考えることができる。 ・身の回りにある材料と加工の技術にこめられた工夫を読み取ることができる。 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工の技術の評価し、適切に選択、管理、運用し、新たな発想に基づいて改良、応用することができる。	・使用する状況を想定し、材料の長さや大きさを調整することができる。 ・製作記録をまとめ、製作を振り返り、自身の作業について評価・改善点を考えることができる	・実習中の取組 ・ワークシート ・定期考査	・教材工夫 ・個別指導 ・製作例提示
	3	・進んで材料と加工の技術とかかわり、主体的に理解し、技能を身に着けようとしている。 ・自分なりの新しい考え方やとらえ方によって、解決策を構築しようとしている。 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて材料と加工の技術を工夫し創造していこうとしている。	・自ら進んで材料と加工に関わる技術を見つけ出し、技能について身に着けようとしている。 ・身近な材料と加工の技術にかかわる問題を見つけ出そうとしている。 ・よりよい成果や製品を目指して工夫や改良を加えようとしている。	・実習中の取組 ・ワークシート	・教材工夫 ・補習実習 ・個別指導

D 情報 時間(～35) 11～3月 ・情報通信基礎 ・情報モラル	1	・情報の表現、記録、計算、通信などについての科学的な原理や法則を理解し、説明できる。 ・情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、セキュリティなどにかかわる基礎的な技術の仕組みを理解し、説明することができる。	・情報の表現、記録、計算、通信技術について理解している。 ・情報のデジタル化や処理の自動化など基礎的な技術の仕組みを理解している。	・ワークシート ・作品 ・定期試験	・教材工夫 ・質問用紙 ・補習実習 ・個別指導
	2	・生活や社会の中から情報の技術にかかわる問題を見出して課題を見つけ出し、解決策を考えることができる。 ・身の回りにある情報の技術にこめられた工夫を読み取ることができる。 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を評価し、適切に選択、管理、運用し、新たな発想に基づいて改良、応用することができる。	・生活や社会にある情報の技術を使ったシステムを評価し、改善する方法を構想できる。 ・プログラムの構想をまとめることができる。 ・製作したプログラムを評価し改善点を考えることができる。	・実習中の取組 ・ワークシート ・定期考査	・教材工夫 ・個別指導 ・製作例提示
	3	・進んで情報の技術とかかわり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 ・自分なりの新しい考え方やとらえ方によって、解決策を構築しようとしている。 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて情報の技術を工夫し創造していこうとしている	・自ら進んで情報に関わる技術を見つけ出し、技能について身に付けようとしている。 ・生活や社会にある情報にかかわる問題を見つけ出そうとしている。	・実習中の取組 ・ワークシート	・教材工夫 ・補習実習 ・個別指導